

## 2. 大気汚染物質濃度の推定

### (1) 計算条件

設定したモデルに基づき、昭和52年度の発生負荷量及び昭和65年度の予測発生量を用いてメッシュ単位に濃度を予測した結果を、計算値と実測値の間の回帰式を用いて補正し、昭和52年度及び昭和65年度の濃度とした。

#### 1) 二酸化硫黄

補正式は  $y = 0.96x + 2.11$  とし、 $x$  は予測値、 $y$  は補正予測値であり年平均値  $0.002 \mu\text{m}$  をバックグラウンド濃度とした。

#### 2) 二酸化窒素

補正式は  $y = 0.80x + 4.576$  であるが、回帰係数が  $0.80$ 、バックグラウンド濃度に相当する値が大きいことから、 $x$ 、 $y$  の標準偏差が小さいことも考え合せ、回帰係数を  $1$  とするような直線式を当てはめそれを補正式とした。 $y = x + 2.547$  バックグラウンド濃度は、実測の平均値と予測の平均値の差から求めた。